

11 番（小川義昭君）

ひきこもりの長期化、高齢化は、本当に新しい社会問題であります。どうか本市におかれましても引き続きその対応策に積極的に力を入れていただくことをお願いしたいというふうに思います。

最後の質問は、小学校のプログラミング教育の完全実施についてであります。

新学習指導要領が昨年度から移行期間に入り、2020年に小学校のプログラミング教育が全面実施されますが、プログラミング教育について、ソフト面、ハード面にわたり質問いたします。

2011年にアメリカの小学校に入学した子供の65%は、大学卒業後今は存在していない職業につくだろうとニューヨーク州立大学大学院センターのキャシー・デビッドソン教授が将来を予測しています。日本でもまた野村総合研究所が2015年の時点で国内に601種類あった職業に関して、10年から20年後の日本の労働種別の約49%が人工知能やロボットなどに代替できる可能性が高いと推計しています。

このように今はまさにIoTやAIの進化による第4次産業革命が目前に迫っており、産業のみならず人々の暮らしや社会のあり方までもが激変していく過渡期だと言っていいでしょう。

こうした社会の変化に中であって、子供たちがみずからの人生を切り開き、よりよい社会をつくり出していくことができるよう、必要な資質・能力をしっかりと育てていくことが強く求められています。読解力、論理的思考力、創造性、問題解決能力などは常にその重要性が指摘されてきておりますが、問題の発見、解決に情報や情報技術を活用していく情報活用能力の重要性も高まっています。

こうした時代背景のもと一昨年3月に告示された小学校の新学習指導要領では、情報活用能力が言語能力と同様に全ての学習の基盤となる資質・能力として位置づけ、コンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切に活用した学習活動の充実を図ると明記され、小学校におけるプログラミング教育を初めて必修化し、来年2020年に全面実施される運びとなっております。

プログラミング教育は、小・中・高等学校を通じて充実が図られ、2024年度以降の大学入学共通テストでもプログラミングなどの情報科目の導入が検討されるなどその重要度は一段と高まっています。

小学校段階におけるプログラミング教育のねらいは、プログラミングの言語を覚えたり、プログラミングの技能を習得したりすることではなく、文字入力など基本的な操作を習得し、新たにプログラミング的思考を育成することにあります。

県内の自治体などのプログラミング教育に関する最近の動向を新聞報道などで見たところ、金沢市はことし4月、プログラミングディレクターを委嘱し、指導者の育成を図ろうとしています。金沢市の公民館では、プログラミング教育を昨年度の6回に引き続き今年

度は11月までに計9回実施する計画もあります。

さらに加賀市では、今年度質の高いプログラミング教育を提供する米国生まれのコンピュータークラブハウスを市内に開設し、高度なIT人材の育成を図ろうとしています。

コンピューターは、人々の生活のさまざまな場面で活用されていますが、単に便利な魔法の箱ではなく、それがプログラムなどによって動いていることなどその仕組みを知り、主体的に活用できることは、これからの社会を生きていく子供たちにとって何より大切であります。

ここで小学校で来年度からプログラミング教育が必修化され、完全実施されるのに合わせ、本市の現状と方向性について質問いたします。

1点目、2020年に全面実施される小学校のプログラミング教育に当たり、その効果などについてどのように認識しているのでしょうか。

必修化されるプログラミング教育は、どの教科で学習し、教育カリキュラムにはどのように組み込んでいくのでしょうか。

3点目、プログラミング教育の準備・取り組みへの進捗状況はどのようになっているのでしょうか。あわせて来年度の実施に向け、子供たちに対し円滑に受け入れられる体制は整っているのでしょうか。必修化前に試験的な実施はあるのでしょうか、お答えください。

4点目、新学習指導要領の総則では、情報活用能力の育成を図る各学校において、コンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整えることが明記されています。小学校のプログラミング教育の実施に当たり、生徒や校舎内におけるハード面のICT環境整備の現状及び今後の計画についてお伺いいたします。